

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200303		
法人名	特定非営利活動法人 快		
事業所名	グループホーム 快 豊里	ユニット名	
所在地	登米市豊里町新田町29番地		
自己評価作成日	令和 5年 2月 2日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 3月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私共の施設のアピールポイントと致しまして、第一に地域に合わせた低料金設定にしており生活保護受給者から低所得の方でも利用しやすい点、また弊施設には医療従事者の配置はないため医療面では協力医療機関(市立豊里病院)への主治医変更によるフォロー及びやまと在宅診療所登米のフォローにより市立登米市民病院への検査などの連携がスムーズに執り行われており弊施設側と致しましても医療面において【いざっ】という時に支えて頂いていること、更に弊施設の立地条件において第3次救急指定医療機関(石巻赤十字病院)が近くであることもアピールポイントの一つと心得ております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、登米市豊里地区の三陸道桃生豊里ICより車で約10分の所に1ユニットの「グループホーム快豊里」がある。旧北上川が流れ、近くに市立豊里病院や小・中学校がある。暖かい日は、ホームの周辺を散歩したり、お茶を飲んだり日向ぼっこをしている。感染対策をし、日帰り温泉の小旅行に出かけ、貸し切り風呂に入り、個室で食事を楽しんだ。ホームでは、職員が獅子に扮しての新年会、職員の鬼に甘納豆投げての節分、ちらし寿司を食べて甘酒を飲んでの雛祭り、短冊に願い事を書いての七夕祭り、鶴・亀対抗のミニ運動会等入居者と職員が一緒に楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム 快 豊里**)「ユニット名 **1ユニット** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人指導の下、法人理念及び事業所理念を念頭に会議などで補い実践しております。	事業所理念(6項目にこころよい快護を入れた)をホールや玄関に掲示し、全体会議で振り返り、継続している。行事や日々の暮らしの中で、快よい環境作りを目指し、笑顔で安全で安心に過ごせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣清掃等には参加しております。	近所の方が、季節の野菜を持って来てくれたり、散歩の時に声掛けしてくれる。町内の一斉清掃や集会所の掃除に出かけている。地域住民より、ホームの入居条件など相談があり、パンフレットで説明した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常時お困りの案件などある場合、または電話にて相談して頂く窓口または苦情などは常時受付しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在新型コロナウイルス感染症予防対策のため郵送にて執り行っております。	コロナ禍のため、各メンバーに資料を送付し、書面開催をしている。入居状況や職員状況、活動状況など報告している。メンバーより職員のコロナ対応の労いと「ヒヤリハット、事故報告も載せて」との意見があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管轄市町村関係者には報告、及び相談又は市より研修依頼(新型コロナ感染予防対策)などがある場合は積極的に参加しております。	コロナ感染症発症により、市・保健所と連携を図り、ホームの現状を報告し、感染対策に取り組んだ。地域包括と生活困窮者の入居について連絡を取り合っている。感染予防の手袋やマスク、ガウン等の提供がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人指導の下、拘束しない・させない取り組みをしております。また玄関施錠は夜間帯のみです。	身体拘束廃止委員会で、身体拘束禁止となる基本的な行為について確認している。家に帰りたいと玄関に来る方は、一緒に散歩に出かけるなど、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人指導の下、虐待による訴訟問題・刑事事件など具体的事例案件をもとに会議にて議題として話し合われている。	勉強会で、「待って下さい」「ダメです」など不適切なケアに繋がることを職員間で話し合い、虐待防止に努めている。コロナ感染症発症により、職員のストレスが軽減できるようにフォローしながら乗りきった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は研修などで得ておりますが現時点で各利用者様にはご家族様が存在しておりますので直ぐの必要性は御座いません。尊厳尊重には十分注意をはらった援助をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実践しております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が中心となり実践しております。	コロナ禍の面会は、窓越しに行っている。誕生日にケーキを持ってくる家族に対応した。毎月日常の生活の様子のスナップ写真を送付している。茶の間に飾り、近所の方が見て「楽しそうね」とコメントを貰った。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度の会議にて法人中心となり意見交換を設けております。	むせこむ方へ刻み食への変更やトイレ拒否の方へタイミング見て誘導する等反映した。ホールの加湿器の買い替えや掃除機の増台など提案が実現した。資格取得の支援や希望休、シフトの配慮も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践して頂いております。また職員間でも環境整備の推進を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	宮城県介護研修センターや仙台市で行われる研修などに積極的に参加させて頂き、サービスに反映と個人のレベルアップに繋がっております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染予防対策につき法人指示の下、他事業所(他法人)へは控えておりますが系列事業所間にて交流は行っております。	毎月、県の各種研修会に参加し、入居者のために切磋琢磨している。同系列のホームと温泉に行ったり、職員の相互職場交換体験など実施し交流している。地域の薬局に処方箋の内容を聞き書面で返事を貰った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症専門施設のため施設利用にのみ対応させて頂いておりますが必要とあらば他のサービスまたは病院などご提案させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭にサービスを提供しておりますので各利用者様のできること・できないことを考慮し無理強いではない役割を持って頂き活性を図れる生活が送れる様に職員間で話し合っ実践しております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症予防対策に努めているため窓越しでの面会対応にて両者の関係を保つようにしております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防対策に努めているため窓越しでの面会対応にて両者の関係を保つようにしております。	孫が成人式の写真を持って来訪した。誕生日に、ケーキや花を持って来る家族もいる。ホームの携帯で家族と連絡を取り合っている。仲良し同士、レク活動を一緒にしたり、声を掛け合っ一緒に入浴している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員をあげ各利用者様のBPSDを把握の上対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の支援についてはご家族様のご要望に沿う取り組みをしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様は認知症を患っており、自宅に帰りたいと思っている方、思っておいでになっても諦めている方もおります。無責任な【迎えに来るよ】とお堪えするしかない時がサービス員として一番辛い時です。御指導下さい。	ヤギの乳で育った事や夫運転のダンプに乗って荷物運びを手伝った事などを傾聴している。「初詣に行きたい」「甘い物を食べたい」など思いを叶えている。難聴の方は、ジェスチャーを交えて思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	弊施設に入居する前の担当ケアマネより情報収集に努めておりますが情報不足の懸念などは御座います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者様の既往歴を理解し認知症以外の既往歴が悪化しない取り組みを構築しております、また悪化した場合などは主治医指示の下、ケアに反映させております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の要望とご本人様の意向に沿った計画、他主治医殿からの注意事項などを盛り込んだ計画を実践しております。	本人・家族の希望と主治医の指示を参考に担当者会議で話し合い作成している。「足腰が弱らないようにしたい」の要望で適度の体操等を取り入れ、体を動かす機会を多く持つように盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録とは別に全職員向け申し送りノートを日々確認(署名記入)し反映させております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昨年は新型コロナウイルス感染症予防対策のなか、系列事業所合同日帰り温泉など実施し各利用者様の交流とストレス発散に努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域(登米市豊里町)資源の把握に努め、安全で豊かな生活を営むことができるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	弊施設協力医療機関及び各利用者様主治医殿との綿密な情報交換を構築しております。	3人の方が協力医療機関の豊里病院に職員対応で受診している。他の方は、やまと在宅診療所の訪問診療である。夜間や緊急時は、在宅診療所に連絡し、24時間支援体制が出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療所を主治医に置かれている利用者様においては定期訪問診療が実施されておりその都度利用者様情報、上申含み実践しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院などした場合は医療連携室に連絡または病棟に問い合わせをし安心した治療が進行するように努めております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医を在宅訪問診療所に置かれている利用者様を除き、医療機関主治医の場合は入院の方向性となっております。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針同意書」を家族に説明し同意を得ている。ホームで看取りを希望した場合は、訪問医や家族、職員が連携し看取りを実施している。今年5名看取った。職員は看取り研修を受けた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域消防署職員による蘇生方法指導など行って頂いておりましたが現在新型コロナウイルス感染症予防対策にて施設内にて在宅訪問診療所に指導を受けております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域避難所の受け入れ条件や、職員による避難誘導援助方法など定期的に取り組んでおります。	年2回(夜間想定を含む)出火場所の確認や初期消火、避難誘導などの訓練を実施している。居室内やトイレに人がいないかを確認し、終わったらドアを閉め写真を裏返しにして「避難済み」にすることを確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人指導の下、利用者様を呼ぶ際に【さん付けの義務化】を心掛けておりますがケースバイケースの場合も実際あり得ます。	名前は「～さん」と呼んでいる。本人の希望で「～ちゃん」と愛称で呼んでいる方もいる。入居者と接する時は、優しく寄り添い不快にさせない言葉かけをしている。縫物の好きな方には、雑巾を縫ってもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロック及びネグレクトの禁止を実践している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員によるペースで過ごされる場合が多々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時に援助し身だしなみを整える取り組みを継続し実践しております。また、入浴時、失禁時には衣類の交換など衛生面にも配慮する取り組みを実践しております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	支援する側の感性が大切であり、ゆっくりの日もあればまだ食事中であるにも関わらず空いた食器をそそくさと下げたりする場合があります。	家族や近所の方が持って来た野菜などを取り入れ調理している。郷土食のハット汁を好む方が多い。誕生日には、希望で焼き肉やバイキングで好きなパンを選んで食べている。お好み焼きなど一緒に作り食べた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	弊施設には栄養管理士が不在のため定期的な採血により情報を得るしか方法がなくバランスを構築してはいるが適宜かどうかは分かりません。また水分補給については水分が不足しないようにイン・アウトを管理しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でできる方には声掛けし、援助が必要な方には職員援助の下、実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日を通じて定期的な声掛け・誘導にて排泄支援を行っております。	自立している方や、落ち着きがなくなるなどサインを把握し、声掛けして全員トイレで排泄している。夜間は、声掛けやおむつ交換、ポータブルなど個別に対応している。退院後にオムツからリハパンに改善した方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬に頼らない食事面で排便改善に力を注いでおります。具体的にはヨーグルトまたは繊維物を多く取り入れたメニュー食事を実践しておりますがなお実施しても改善が見られない方は服薬コントロールを実施しております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	最低週2回の入浴は実践しておりますがその他での入浴条件になると1日の職員に限りがあるため、難しいです。	一番風呂や最後にゆっくり入りたい、熱め、同性介助等本人の希望に合わせている。拒む方は、職員を変えたり、声掛けに工夫している。湯上りに好みの飲み物を飲んでいる。菖蒲湯やゆず湯を楽しんだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	弊施設としては昼夜逆転しない規則正しい生活を送って頂くために居室で適度(1時間程度)の休憩時間を設けております。習慣として維持する目的と利用者様の健康を考慮しての取り組みです。(夜間はぐっすり眠って頂いております)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	弊施設においては認知症専門施設であるため定期処方薬管理の援助、及び説明を実践しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	実践しております。また依頼などする場合も職員本位の支援サービスにならない様に合意の下、実践しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防期間であるため毎日実践には至りませんが週1程度のドライブなどは行っております。	暖かい日は、ホームの周辺を散歩したり、庭でお茶会や日光浴をしている。薬来公園の花見や平筒沼の蓮見物に出かけている。野菜作りや庭先で夏祭り、芋煮会を楽しんでいる。スーパーで好きな飲み物やお菓子を買ってくる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様御本人が管理している方、または管理できない方と別れるため管理できない方のみ支援と管理をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設に設置してある電話にてご家族様と定期的にお話をして頂いております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間づくりの工夫は行っておりますが、稀にトイレを利用する場面で居合わせてしまう時が御座います。また、季節感についての配慮としては装飾品及び季節花などを取り入れております。	ホールは、日当たりが良く自然な光が差し込んでいる。手摺りやテーブル、床などを消毒し、換気も行っている。節分の写真や雛祭りのタペストリーを飾り、季節のパンジーや蘭の鉢を置いている。テレビを見たり、トランプやパズルなど楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	弊施設は平成14年に開設しておりますがその折は県担当班長の指示・矜持の下、共有スペースを配置しております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際は、ご家族様にご説明の上本人様が使用してきた筆筒など持ち込んで欲しい旨の説明をし実践している。	ベッドやクローゼット、洗面台が備え付けである。馴染みのタンスや衣装ケース、テレビなどを持ち込んでいる。家族や行事の写真を飾り、温・湿度も適切である。テレビや好きなDVDを見るなど思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄・風呂場など比較的自立の方の場合はトイレが何処に配置されているのかなどご本人様に説明をし自立支援を行っている。		